

(4) 山麓部・平野部




1) 環境の特徴

山麓部・平野部は、標高 700m より低い地域を指します。

山麓部は、山地帯へ続く森林と農耕地や住宅地との境界にあたります。人の手が加わった環境ですが、雑木林、水田・畑地の周囲は、野生生物の重要な生息・生育地となっています。また、社寺林内の樹洞がある大木は、ムササビやフクロウ等が巣やねぐらとして利用しています。

平野部は、住宅地や工場地、農耕地等が広がっています。そこにある社寺林や屋敷林は、平野部では少ない森林環境であり、野生生物の貴重な生息・生育地となっています。

2) 環境を指標する種

環境	環境を指標する種
農耕地 	植物：カエデ類、ケヤキ、シナノタンポポ、スイバ、スギ、セリ、タケ類、ヒノキ、ヤブカンゾウ、ワレモコウ 動物：キツネ、タヌキ、ヒバリ、ムクドリ、ニホントカゲ、トノサマガエル、ナミハンミョウ、ネグロクサアブ、ハッカハムシ、ハウネンエビ

環境	環境を指標する種
<p>社寺林</p> 	<p>植物：エノキ、カヤ、ケヤキ、シナノザサ、スギ、チゴユリ、チヂミザサ、ツリフネソウ、ヒノキ</p> <p>動物：タヌキ、ムササビ、アオバズク、ヒヨドリ、フクロウ、シナノアオオサムシ、ホソヒラタシデムシ</p>
<p>屋敷林</p> 	<p>植物：アカマツ、アブラチャン、エノキ、カシワ、ケヤキ、コクサギ、ヤブラン、ヤマブキ</p> <p>動物：タヌキ、ヤマコウモリ、オナガ、コムクドリ、モズ</p>

3) 代表的な地域

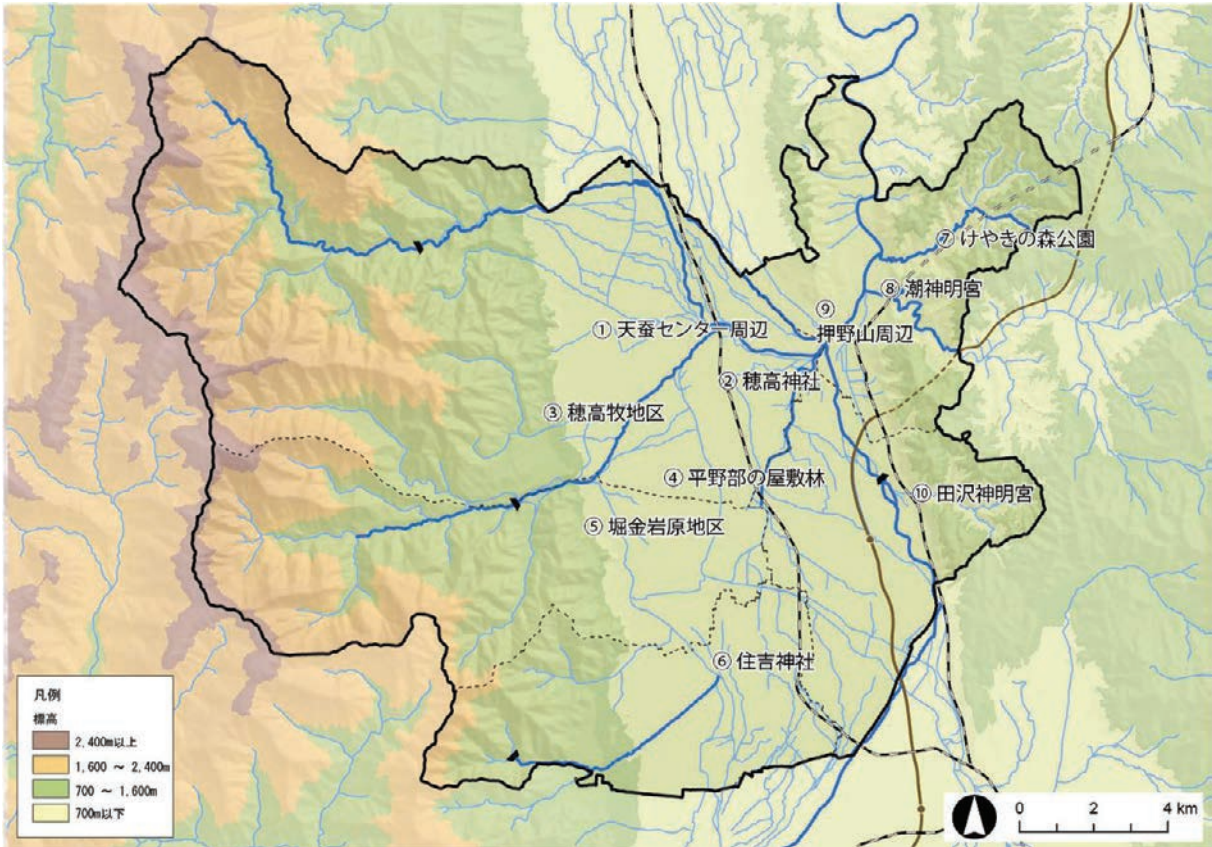


図 5-4 重要な自然環境のみられる代表的な地域（山麓部・平野部）

①天蚕センター周辺



[地域の特徴]

穂高有明地区では、江戸時代からヤママユ(天蚕)を用いた養蚕がおこなわれてきました。ヤママユはクヌギの葉を餌とすることから、飼料用のクヌギ林が維持されてきました。クヌギ林は、カブトムシやクワガタムシ類等の昆虫の良好な生息地となっています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：クヌギ、コナラ、ススキ、ワレモコウ
動物：エナガ、シジュウカラ、アカガネアオゴミムシ、オオミドリシジミ、カブトムシ、コクワガタ

②穂高神社



[地域の特徴]

穂高神社は、穂高の中心部に位置し、スギやヒノキ、ケヤキ等のうっそうとした林に覆われています。林内には、チヂミザサ、ヘビノネゴザ等の湿った場所を好む植物が生育していません。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：ケヤキ、スギ、チヂミザサ、ヒノキ、ヘビノネゴザ、ヤブラン
動物：カワラヒワ、トビ、ヒヨドリ

③穂高牧地区



[地域の特徴]

穂高牧地区には圃場整備されていない昔ながらの畑地が広範囲に残っています。畑地の土手には外来植物が多くみられますが、在来植物のアマナ、スズサイコ、ネジバナ、アヤメ等を見ることができます。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：アマナ、アヤメ、ウツボグサ、スズサイコ、ツルボ、ネジバナ
動物：キツネ、カワラヒワ、ヒバリ、ホオジロ、ギンヤンマ、チャイロスズメバチ、ミヤマクワガタ

④平野部の屋敷林



[地域の特徴]

平野部には、防風を主な目的とした屋敷林が点在しています。スギ、ヒノキ、ケヤキ、コナラ等が中心です。これらの木の多くは、人の手によって植えられたものです。

屋敷林は、平野部における野生生物の重要な生息・生育地となっています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：アカマツ、アブラチャン、イチイ、ケヤキ、コクサギ、タケ類、ヤブラン、ヤマブキ

動物：タヌキ、オナガ、コムクドリ、トビ、ヒヨドリ、エンママムシ、ヘイケボタル、ミンミンゼミ

⑤堀金岩原地区



[地域の特徴]

堀金岩原地区の山麓部には、棚田が広がっており、その一部は現在、国営公園のエリアになっています。畔にはツルボ、ツリガネニンジン、クララ等の在来植物が多くみられます。同地区では、オオルリシジミの保護活動がおこなわれています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：キツネノカミソリ、スイバ、クララ、ツリガネニンジン、ツルボ、ヤブカンゾウ、ワラビ、ワレモコウ

動物：キツネ、キジ、ノスリ、ホオジロ、モズ、ヨタカ、オオルリシジミ、キバナツノトンボ、ネグロクサアブ、ハンノキカミキリ

⑥住吉神社



[地域の特徴]

住吉神社は、黒沢川最下流の流れが伏流する場所であり、スギ、ヒノキを中心とした社寺林です。かつては黒沢川を通して黒沢山と繋がっていました。現在でも山地性の野生生物が生息・生育しています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：アカマツ、エゴノキ、スギ、チゴユリ、ヒノキ

動物：シジュウカラ、ヒヨドリ、シナノアオオサムシ、ホソヒラタシデムシ

⑦けやきの森公園



【地域の特徴】

けやきの森公園は、旧篠ノ井線沿いの急斜面にあるケヤキ林です。落葉広葉樹林としては規模の大きい植林地（約 15,000 本）で、砂防を目的としています。けやきの森周辺には、旧明科町で発見されたことから名前がついたアカシナナガゴミムシが生息しています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：アカマツ、イタドリ、ウバユリ、オニグルミ、ケヤキ、ススキ、ダンコウバイ、ヤマブキ

動物：キビタキ、コゲラ、シジュウカラ、アカシナナガゴミムシ、エンマムシモドキ

⑧^{うしお}潮神明宮



【地域の特徴】

^{うしお}潮神明宮は、^{かんだちやま}雷山の西側の山麓部に位置します。境内東側の斜面には、ケヤキやコナラの森林が広がっています。ケヤキの大木にある樹洞は、ムササビ等の巣やねぐらに利用されています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：アカマツ、エノキ、ケヤキ、コナラ、サンショウ、スギ、ヒノキ、ムラサキシキブ

動物：ムササビ、フクロウ

⑨押野山周辺



【地域の特徴】

押野山（695m）は、アカマツ林や雑木林、果樹園や畑地等が点在しています。松枯れの被害が甚大なため、樹種転換がおこなわれています。森林性の鳥類や昆虫が生息しています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：アカマツ、クズ、クヌギ、コナラ、ソヨゴ、ダンコウバイ、ヤマウルシ、ヤマツツジ

動物：キビタキ、ヤマガラ、オオムラサキ、スジボソヤマキチョウ

⑩田沢神明宮



【地域の特徴】

田沢神明宮は、光城山の南側に位置します。境内にはスギ、ヒノキ、カヤ等の大木がみられ、林床にはイカリソウ等が生育しています。周辺には、アカマツ林や雑木林があることから、森林性の野生生物が多く生息・生育しています。

【主に生息・生育する野生生物】

植物：アカマツ、イカリソウ、スギ、ヒノキ、ムラサキシキブ、ヤマブキ
動物：タヌキ、エナガ、キビタキ、コゲラ

□■ 命の水と鎮守の森 ■□

安曇野市の平野部は、北アルプスから河川が運び出した砂礫が作った扇状地の上にあります。先祖は山麓から盆地の中央地へと開発を進めてきました。扇状地の中流域は水が伏流してしまい大変でした。また、この河川は大雨が降るとよく洪水を起こしました。上流にダムができ、堤防が作られて現在のようになるまで先祖は大変な苦勞を重ねてきました。

古くから水は「命」と呼び、生活用水、牛馬の飼育、灌漑用水として大切なものとされてきましたが、時に悪水（洪水）ともなりました。先祖が残した例をひとつ紹介します。

住吉神社は黒沢川の川尻にあります。そのため耕土も厚く、この一帯は縄文時代の遺物を始め土師器・須恵器等の出土品も多く、古くから集落が成立していました。従って住吉神社も古くから所在していたと考えられます。

住吉神社は、黒沢川の流れが扇状地の地下に伏流し、水の途絶える場所で、中世の住吉荘の中心地の楡の集落を洪水から守る神や総鎮守として祀られた神様です。鎮守の森をつくり、今も大切にしています。



空からみた住吉神社と黒沢川（2005年）

出典：三郷村誌自然編